

戦争遺跡・幻の越谷陸軍飛行場

越谷市郷土研究会 加藤幸一

かつて、越谷から岩槻にかけて陸軍の飛行場があった事実が忘れられようとしている。しかし、今もなお兵舎や蓋をした暗渠、飛行場の一部の施設の跡が残り、当時の滑走路や誘導路が道路として利用されている。「しらこぼと水上公園」に向けて北に一直線伸びている道路がある。コンクリートだった滑走路の名残である。越谷の荻島村から岩槻の新和村にまたがる飛行場であった。地元では通称「荻島飛行場」「新和飛行場」とか、にいわ新和村の論田地区にあったので「ロンデン飛行場」とも呼ばれた。

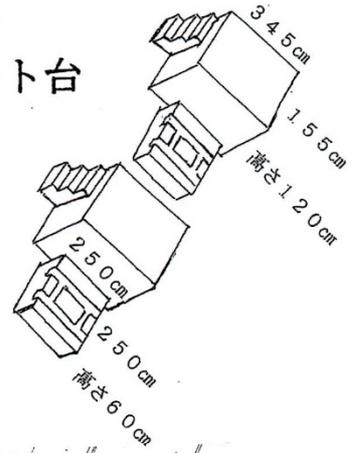
飛行機を導く誘導路は、滑走路の北端と南端を東側に突出したカマボコ型で結ばれていて、現在でもその大部分が道路として使用されている。戦車が通っても壊れない頑丈な蓋がされた暗渠は、滑走路の東西に平行して残っている。特に西側の方はほぼそのままの状態が残っている。西側暗渠の西方には格納庫跡のコンクリートの床下壁が残っている。さらに少し離れた西隣には巨大なコンクリート台の残骸が目立つように独立して残っている。また、「しらこぼと水上公園」の西方の離れた所には、台地を削った隠し格納庫と伝えられる掩蓋壕（えんがいこう）跡がある。

終戦の前年、昭和十九年七月に地元の農家十二軒が強制的に立ち退かされて突貫工事が始まった。終戦の年の八月下旬に完成したが、十五日の終戦を迎えることになる幻の飛行場となった。

荒谷仁氏の目撃談によると四度ほど使われたという。未熟な操縦士によってでんぐり返りながら不時着した戦闘機があった。また「雷電」戦闘機や「屠龍」とりゅう「爆撃機が着陸した。さらに戦後、米軍のP51戦闘機が不時着したのである。」。

越谷陸軍飛行場(荻島飛行場)跡 地図

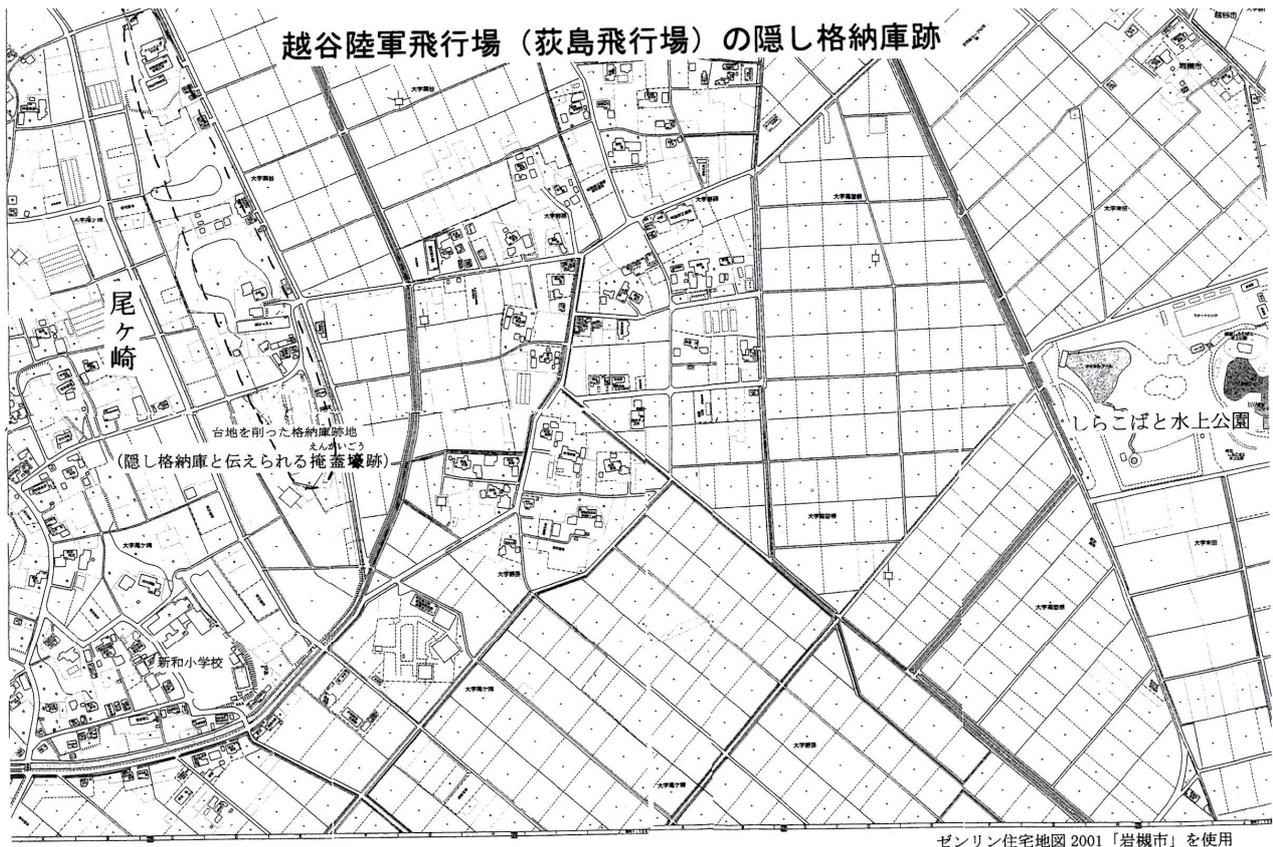
巨大な コンクリート台 の絵



巨大な
コンクリート台
の絵

バイパスの南側にあった池跡は、
飛行場造成に使用するために
掘られてできた池。

※滑走路跡や誘導路跡は、当時の航空写真を元にして推定して描きました (加藤幸一) ゼンリン住宅地図 2001「岩槻市」を使用



旧・尾ヶ崎村の東側には、北から南に向けて伸びる半島状の台地がある。南端は新和小学校の北東方向にある。地元ではかつて「七島（ななしま）」と呼ばれていた。「昔、七つの山（台地）が連なるように南方に突き出ていた」からそのように呼ばれたという。終戦間際、越谷陸軍飛行場の建設にともない、この台地は飛行機を隠すため設置する格納庫「掩蓋壕（えんがいごう）」として何か所か削られ、複数の格納庫ができたのであろう。地元では「掩体（えんたい）」と呼ばれた。それにともない飛行場からの誘導路も作られたのであろうか。



尾ヶ崎の台地の西側から台地の中央部より北方を見る



同地点から正面の台地の南部を見る



滑走路跡（南端より水上公園方向を見る）



滑走路の西側の暗渠跡



巨大なコンクリート台跡



格納庫跡（床下南側の外壁）



越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」

【第14回】七夕フェスタ

～違いを認め合う“平和”な社会をめざして～

【登録団体企画展示】

「NPO法人越谷市郷土研究会」の「企画展示」の様子。

この写真は、

越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」の

許可を得て掲載しております。